

# A-41 アスコルビン酸 (Vitamin C) の研究

## (第4報)

### 種実の成熟にともなう V. C の消長について

広島大 川上いつる

1. これまでに演者が、大豆において発芽とともに、アスコルビン酸が急増することを組織化学的な方法で局部的に分布を検討し報告したが、それとは逆に、キュウリ、カボチャ、リンゴなどについて、種実の成熟にともなう V. C の消長並びに分布について考察した。

2. 既報告や前演者(田村)らと同じ方法を用い、すなわち硝酸銀の還元性を利用してアスコルビン酸の検出を行なった。50~100 $\mu$ 位の切片はビノキュラで、更に詳細観察のためには5~10 $\mu$ の薄片とし、顕微鏡観察を行なった。

3. キュウリにおいては花つきキュウリ、成熟前のものでは中心部は子房壁の部分よりもインドフェノール法による定量分析でも V. C 含量は明らかに多く組織化学的検出方法でも明らかな差がみられた。カボチャにおいても同様現象がみられ、リンゴでは可食部よりも果托ずい(心部)に極めて多く認められた。

これらは、結実に V. C が役立っているものと判断される。